

令和7年度マイスター・ハイスクール事業 成果発表会 講評シート

管理機関名(宮城県)

1. 取組についての評価

・81万平米という広い敷地を持つ加美農業高校をベースに、学校・家庭・地域・産業界が一丸となって「チーム加美農」として次世代の農業人材を育成するという共通のビジョンを掲げ、ベクトルを合わせていることは評価できる。その具体例として、地域連携・学科連携(農業科・農業機械科・生活技術科)を核とした「模擬株式会社」という取組が非常にユニークで、生徒が主体的に課題研究等の探究を地域の課題や地域資源を活用した商品開発等を通じて起業の学びまで結びつけている点は実践教育としてモデルとなる取組である。

・産業界と連携しながら、産業界も「優秀な卒業生を採用する」から「自社の将来のパートナーとして共に育てる」というコンセプトを通じて、学校側も「教育」から「共育」への意識を深化させるというビジョンは「共育」というキャッチフレーズとともに拡く受け入れやすいコンセプトである。

・地域農業で大きな課題となっている鳥獣被害対策などをオープンチャットを通じて生徒が地域のサポートする取組は、地域貢献に寄与していることへの喜びも共に学べるプログラムとして評価したい。

・「アグリテックエンジニア」の育成に向けて、生徒が主体的かつ前面に立ったまさに”実学主義”を体現する様々な取組が展開されている点が評価できる。

・「人材発掘」「人材育成」「人材供給」の各ステージの取組が、加美農業高校と関係機関等が一体的に行われており、その効果は探究学習の実践という教育レベルの域を超えた「アグリテックエンジニア」育成の実践的な取組である。

・地域や関係各所との共創・共育の取組は、連携先にも大きなメリット(小中学校:進路選択機会の充実、企業:商品やサービスの企画・開発のヒント獲得、行政:獣害対策の新たな展開、住民への理解醸成 等)を供与できるものであり、持続可能かつ地域活性化に大きく貢献する取組である。

2. 今後の課題と考えられること

・これまで取り組んで来たことを継続的に発展していくために、中長期的な視点に立って地域との連携を深化させ、自立・自走化に向けた取組を期待。

・マイスター・ハイスクール事業を実践してきた各取組を通じて体得した農業・農村の課題や問題について、生徒自らSNS等による情報発信を強化することで、関係人口の獲得や地域理解の深化、さらには広く国民理解の獲得に期待。